

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添

あり

| 応募概要 | 分野 | 伝統芸能 | 種目 | 演芸 |
|------|----------------------|------------|--------|-----|
| | 応募区分 | 一般区分 | | |
| | 複数応募の有無 | 有 | 応募総企画数 | 4企画 |
| | 複数の企画が採択された場合の実施体制 ※ | 複数の企画を実施可能 | | |

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

| | | | | |
|---------------|---|---|--|-------|
| 文化芸術団体の概要 | ふりがな | かぶしきがいしや ぷろしーど・あーつ | | |
| | 制作団体名 | 株式会社 プロシード・アーツ | | |
| | 代表者職・氏名 | 代表取締役 柿花 龍治 | 団体ウェブサイトURL https://www.proceed-arts.co.jp/ | |
| | 制作団体所在地 | 〒 531-0071 | 最寄駅(バス停) | JR大阪駅 |
| | | 大阪府大阪市北区中津6丁目5番3号 | | |
| | 制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック | <input type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です | | |
| | ふりがな | かいさいえんげいきょうかい | | |
| | 公演団体名 | 関西演芸協会 | | |
| | 代表者職・氏名 | 代表 桂 福団治 | 団体ウェブサイトURL | |
| | 公演団体所在地 | 〒 531-0071 | 最寄駅(バス停) | JR大阪駅 |
| | | 大阪府大阪市北区中津6丁目5番3号 プロシード・アーツ内関西演芸協会事務局 | | |
| | 制作団体 設立年月 | 平成4年3月 | | |
| | 制作団体組織 | 役職員 | 団体構成員及び加入条件等 | |
| | | 代表取締役 柿花 龍治 取締役 柿花 比呂美 | 製作スタッフ10名 舞台スタッフ12名 | |
| | 事務体制 事務(制作)専任担当者の有無 | 事務(制作)専任の担当者を置く | 本事業担当者名 | 柿花 龍治 |
| 経理処理等の監査担当の有無 | 有 | 経理担当者 | 守山比呂美 | |
| 本応募にかかる連絡先 | メールアドレス AND05620@nifty.ne.jp | 電話番号 | 0664560303 | |

| | |
|---------|---|
| 制作団体の実績 | <p>制作団体沿革・主な受賞歴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和61年 オフィスカキハナ 創立 ・平成2年 「花と緑の博覧会」手話落語開催 ・平成4年 株プロシードと改名、法人となる ・平成10年 東京オフィス開設 ・平成11年 NPO法人青少年音楽芸能協会 加盟 ・平成12年 大阪文化連合会 加名 ・平成20年 プロシードよりプロシード・アーツに改名 文化庁「本物の舞台芸術体験事業」に参加 ・平成21年 文化庁「芸術家派遣事業 推荐団体」に認定 ・平成22年 文化庁「子どもの為の優れた舞台芸術体験事業」に参加 ・平成23年 文化庁「次代を担う子どもの為の舞台芸術体験事業」に参加 ・平成24年 文化庁「次代を担う子どもの為の舞台芸術体験事業」に参加 ・平成25年 文化庁「次代を担う子どもの為の舞台芸術体験事業」に参加 ・平成26年 文化庁「文化芸術による子どもの為の舞台芸術体験事業」に参加 6月 福島県田村市内小学校にて学校公演数5200校達成 ・平成27年 文化庁「次代を担う子どもの為の舞台芸術体験事業」に参加 ・平成28年 文化庁「次代を担う子どもの為の舞台芸術体験事業」に参加 4月 年間学校公演校6000校達成 ・平成29年 文化庁「次代を担う子どもの為の舞台芸術体験事業」に参加 北区学校教育活動支援文化芸術体験事業 落語・音楽分野で業務委託 1月 6300校達成 ・平成30年 文化庁巡回公演事業 に作品が採択(関東エリア巡回) ・令和3年 文化庁巡回公演事業 に作品が採択 ・令和4年 文化庁 文化芸術による子ども育成推進事業 巡回公演事業 に採択 ・令和5年 文化庁 文化芸術による子ども育成推進事業 巡回公演事業 に採択 ・令和6年 文化庁 文化芸術による子ども育成推進事業 巡回公演事業 に参加 ・令和7年 文化庁 文化芸術による子ども育成推進事業 巡回公演事業 に参加 |
| | <p>『文化庁公演実績』古典芸能分野(落語・狂言)において採択 平成20年 文化庁「本物の舞台芸術体験事業」に採択 平成22年 文化庁「次代を担う子どもの舞台芸術体験事業」に採択 令和3年 文化庁「文化芸術による子供育成総合事業」に採択 令和4年 文化庁「文化芸術による子供育成推進事業」に採択 令和5年 文化庁「文化芸術による子供育成推進事業～学校巡回公演～」に採択</p> <p>『学校公演実績』 古典芸能・音楽分野を中心創業約40年7500校の公演実績。 平成12年312校、 平成22年336校、 平成27年398校、 令和元年320校、 令和7年300校</p> <p>『落語公演 実施校抜粋』 平成29年大阪市北区学校教育活動支援文化芸術体験事業 採択 日向市立日向中学校、大和市立上和田中学校、稻沢市立平和中学校、広島市立楽々園小学校 学習院女子中・高等科、名古屋市立宮中学校、大阪市立茨田北中学校、豊橋市立東部中学校 横浜市立緑園西小学校、鹿屋市立寿小学校、市原市立千種中学校、大山崎町立大山崎小学校 松原市立恵我小学校、鹿児島県立鹿児島工業高等学校、北九州市立守恒中学校 大阪市立堀江中学校、塙町立塙小学校、庄原市立庄原小学校、川俣町立川俣小学校 国立市立第三小学校、まんのう町立四条小学校、西東京市立住吉小学校 神戸市立池田小学校、本庄市立児玉小学校、明和町立斎宮小学校 王寺町立王寺南義務教育学校、伊佐町立曾木小学校、うるま市立伊波中学校 奥州市立水沢小学校、小矢部市立東部小学校、中野区立令和小学校、田辺市立高雄中学校</p> |
| | <p>特別支援学校等における公演実績</p> <p>京都市立 鳴滝養護支援学級 大阪府立 堀 養護学級 中央図書館 わんぱく文庫 大阪市北区文化芸術による子供の育成事業 堀川小学校 聴覚支援学級 大阪府立平野支援学校</p> |

| | | |
|------|------------------------|---|
| 参考資料 | 申請する演目のWEB公開資料 | 有 |
| | ※公開資料有の場合URL | https://www.youtube.com/watch?v=a4IGa ynDCfQ |
| | ※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード | ID: _____ PW: _____ |

別添

あり

【公演団体名

関西演芸協会

】

| 対象 | 小学生(低学年) | <input checked="" type="radio"/> | 小学生(中学年) | <input checked="" type="radio"/> | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------------|---|----------------------------------|----------|----------------------------------|--------------|-----|-----------|-------|--------|---------|--------------|-----|-----------|-------|--|--|--------|---------|
| | 小学生(高学年) | <input checked="" type="radio"/> | 中学生 | <input checked="" type="radio"/> | | | | | | | | | | | | | | |
| 企画名 | 関西演芸協会による上方演芸会 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 企画のねらい | <p>演芸を通じてコミュニケーション力を学ぼう 『複雑な言語と情報伝達方法』を獲得し、集団で協力しあってきた事が人類を大きく発展させた理由であると言われています。コミュニケーション力とは、意思疎通、協調性、自己表現能力のことで、「人との関係性を築く能力」ともいえるものです。言語コミュニケーションは、意見、意思、考え方、知識、感情などを言葉で伝え、それを聞き取り理解する力のことです。また、非言語コミュニケーションとは、言葉以外の部分(身振り、手振り、表情、視線、声のトーン等)で情報を発するコミュニケーションです。演芸は様々な手法を通してコミュニケーション力を発信したり、受信したり、理解する力を養う事が出来ます。知的好奇心が満たされるだけでなく、これまでできなかったことができるようになるという成長の喜びも得ることができ、人生に豊かさをもたらしてくれるでしょう。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 演目概要・演目選択理由 | <p>◆ 難しい説明や指導よりも、実際に体験してみる出会いのステージ ～誰かが機会を作らないと出会うことのない本物の舞台を再現～ ①一番太鼓～二番太鼓 寄席の開演を知らせる太鼓が始まります。 ②寄席囃子教室 落語の仕組みを解説。上方お囃子連による寄席囃子の演奏と解説もあります。 ③上方落語 『平林』『動物園』など上方落語入門編ともいるべき古典落語を1席お聞きください。 ④漫才 上方演芸の特徴ともいべき おしゃべり漫才が登場します。観客参加型の漫才で会場が一体となります。 ⑤大喜利～アイウエオ作文～ 児童・生徒参加コーナー ⑥中入り(休憩) ⑦作ってみよう創作漫才 児童・生徒参加コーナー ⑧太神樂 日本の伝統芸能の一つ。五階茶碗や傘廻しなど視覚的な変化を楽しむ芸能です。 ⑨はめもの落語 上方落語の真骨頂『七度狐』賑やかな音曲に乗った軽妙な旅のお轍をお聞きください。</p> <p>TVなどでは、関西弁を聞く機会は多くても、上質で品格ある上方文化に出会う機会はあまり多くありません。初めて上方演芸に出会う子供たちの為に、特性を生かした演目「漫才」「はめもの落語」「上方の寄席囃子」を「本格的な寄席舞台」で実演いたします。実際に見て、触れて、体験してみる出会いのステージは子供たちの興味や好奇心を引き出し、創作意欲を掻き立てることでしょう。関西演芸協会の全面的な支援を受け、選ばれた出演者による本物の上方演芸をご覧ください。 全国でトップクラスの実績と経験を誇る舞台芸術創造団体ならではの企画をプロジェクト・アーツが提案いたします。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 本公演・ワークショップの内容 | <p>①寄席の名前を考えよう 学校に寄席を呼ぼう！というテーマで、「○□○□ 寄席」と言うように寄席の名前を考えて下さい。考えた寄席の名前は本公演当日、寄席文字で書かれた名札となり体育館を飾ります。 ②一番太鼓・二番太鼓 寄席の開演を告げる一番太鼓や二番太鼓を子ども達に力一杯叩いて頂きます。 ③作ってみよう創作漫才 同じ台本を使いますが、大切な部分に虫食い(余白のある)があります。この台本を使って余白に自分たちの言葉を当てはめて漫才を完成させましょう。プロの漫才師が書いた台本を使いますが、余白を埋める事で、まったく違った物語が出来上がります。余白部分に各チームの個性が光ります。自分たちで考えた創作漫才を発表することも出来ます。 ④大喜利～アイウエオ作文に挑戦～ 言葉からイメージを膨らませるリレー方式の言葉遊びです。身近にある物から頭文字を取って、ひとりひとりが短文を創り一つのお話を創るという創作体験です。起承転結を考え、みんなで連携しながら、一つのお話を創り上げてゆきましょう。 ※ 子ども達も実演者の一員となって、関西演芸協会の寄席を作り上げてゆきましょう。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 児童・生徒の参加または体験の形態 | <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">児童・生徒の参加可能人数</th> <th rowspan="2">本公演</th> <th>参加・体験人數目安</th> <th>5~50名</th> </tr> <tr> <th>鑑賞人數目安</th> <th>50~500名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童・生徒の参加可能人数</td> <td>本公演</td> <td>参加・体験人數目安</td> <td>5~50名</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>鑑賞人數目安</td> <td>50~500名</td> </tr> </tbody> </table> | | | | 児童・生徒の参加可能人数 | 本公演 | 参加・体験人數目安 | 5~50名 | 鑑賞人數目安 | 50~500名 | 児童・生徒の参加可能人数 | 本公演 | 参加・体験人數目安 | 5~50名 | | | 鑑賞人數目安 | 50~500名 |
| 児童・生徒の参加可能人数 | 本公演 | 参加・体験人數目安 | 5~50名 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 鑑賞人數目安 | 50~500名 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 児童・生徒の参加可能人数 | 本公演 | 参加・体験人數目安 | 5~50名 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 鑑賞人數目安 | 50~500名 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 本公演演目 | <ul style="list-style-type: none"> ・一番太鼓・二番太鼓でお出迎え ・寄席お囃子教室 上方落語入門編 ・古典落語 上方落語入門編 ・漫才 上方ペテラン漫才師による漫才 ・大喜利～アイウエオ作文を創ろう～ ・中入り ・作ってみよう創作漫才（創作漫才発表） ・色 物 日本手品、太神樂、等々 ・古典落語 看板落語家によるはめものの落語 <p>(上方お囃子連と子ども達の太鼓で寄席開場を告げる) (上方落語の魅力解説・お囃子は出囃子のみならず効果音としても活用) (先ずは、古典落語を一席お聞きください) (本物の漫才実演) (ワークショップ) (休憩) (ワークショップ) (上方芸能を主体にした寄席の色物が登場します) (上方らしいはめものの落語を一席)</p> <p>上方演芸を代表するテンポの良い漫才や聴きごたえのある落語等、上方演芸の粹を一同に並べたプログラムです。 (別添に補足写真あり)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 原作/作曲 脚本 演出/振付 | <table border="1"> <tr> <td>公演時間</td> <td>90</td> <td>分</td> <td></td> </tr> </table> | | | | 公演時間 | 90 | 分 | | | | | | | | | | | |
| 公演時間 | 90 | 分 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 出演者 | <p>①落語・落語解説:桂 阿か枝→笑福亭 喬若(2026年三喬襲名)→桂 治門→桂 福丸 ②お囃子連 太鼓:月亭 遊馬→月亭 秀都→桂 枝之進 他 三味線:岡野 鏡→はやしや律子→はやしや都美礼 ③色 物 太神樂曲芸・日本手品 日本手品:松旭斎天蝶→キタノ大地→瞳 ナナ 太神樂:ラッキー 舞→豊来家 一輝→豊来家 大治郎→豊来家 玉之助 ④漫 才:シンデレラ・エキスプレス → 幸助・福助 → 若井りき・ゆうき 他 芸歴30年以上の漫才コンビ ⑤落語:桂 福團治→笑福亭 松喬→笑福亭 仁智→桂 枝三郎→桂、梅團治 芸歴40年以上の実力派落語家</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----|-------------|-----|-------------|------|------|----|-----------|----------|-----|-------|-----|-----|------|-----|-----|-----|------|------------|------|-------------|----|-------------|-------------------------|--|------|---|---|--|
| <p>演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度／名</p> | <p>【桂 福団治】 昭和35年三代目桂 春團治に入門する。一春、小春を経て昭和48年四代目桂 福団治襲名。昭和43年三洋文化新人賞を受賞。昭和56年上方お笑い大賞功劳賞を受賞する。平成10年手話落語の功績に対して大阪市文化芸術功労賞受賞。上方落語界を代表する実力派である。現在関西演芸協会会長及び上方落語協会理事を兼務。 【シンデレラ エキスプレス】 昭和63年 漫才コンビ結成。昭和64年、第19回NHK上方漫才コンテスト優秀賞 受賞をコンビ結成5ヶ月で達成という快挙を成し遂げる。平成21年 第44回上方漫才大賞奨励賞 受賞。 【ラッキー 舞】 平成8年 父 ラッキー幸治に入門。 ラッキー幸次＆舞という名前で活躍。父亡き後、女流太神楽曲芸師としてソロ活動を開始。スピード感溢れる大技を得意とする華のある曲芸師である。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>本公司 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む</p> | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">出演者:</td><td style="width: 25%;">7</td><td style="width: 25%;">名</td><td colspan="2" style="width: 20%; text-align: center;">運搬</td><td></td></tr> <tr> <td>スタッフ:</td><td>3</td><td>名</td><td>積載量:</td><td>2</td><td>t</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>車 長:</td><td>5</td><td>m</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>台 数:</td><td>1</td><td>台</td></tr> </table> | | | | | 出演者: | 7 | 名 | 運搬 | | | スタッフ: | 3 | 名 | 積載量: | 2 | t | | | | 車 長: | 5 | m | | | | 台 数: | 1 | 台 | |
| 出演者: | 7 | 名 | 運搬 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| スタッフ: | 3 | 名 | 積載量: | 2 | t | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 車 長: | 5 | m | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 台 数: | 1 | 台 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>本公司 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール)の目安</p> | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="width: 33%;">前日仕込</td><td style="width: 33%;">無</td><td colspan="2" style="width: 33%;">前日仕込所要時間</td><td></td></tr> <tr> <td style="width: 16.6%;">到着</td><td style="width: 16.6%;">仕込</td><td></td><td style="width: 16.6%;">上演</td><td style="width: 16.6%;">内休憩</td><td style="width: 16.6%;">撤去</td></tr> <tr> <td>9:00</td><td>9:30～12:00</td><td></td><td>13:30～15:00</td><td>10</td><td>15:30～17:00</td></tr> <tr> <td colspan="6" style="text-align: center;">※本公司演時間の目安は、概ね2时限分程度です。</td></tr> </table> | | | | | | 前日仕込 | | 無 | 前日仕込所要時間 | | | 到着 | 仕込 | | 上演 | 内休憩 | 撤去 | 9:00 | 9:30～12:00 | | 13:30～15:00 | 10 | 15:30～17:00 | ※本公司演時間の目安は、概ね2时限分程度です。 | | | | | |
| 前日仕込 | | 無 | 前日仕込所要時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 到着 | 仕込 | | 上演 | 内休憩 | 撤去 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9:00 | 9:30～12:00 | | 13:30～15:00 | 10 | 15:30～17:00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ※本公司演時間の目安は、概ね2时限分程度です。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">6月</td><td style="width: 25%;">7月</td><td style="width: 25%;">8月</td><td style="width: 25%;">9月</td></tr> <tr> <td>10日</td><td>10日</td><td>5日</td><td>10日</td></tr> <tr> <td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td></tr> <tr> <td>10日</td><td>10日</td><td>10日</td><td>10日</td></tr> </table> | | | | | | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10日 | 10日 | 5日 | 10日 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 10日 | 10日 | 10日 | 10日 | | | | | | | | | |
| 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10日 | 10日 | 5日 | 10日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10日 | 10日 | 10日 | 10日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p style="text-align: center;">※平日の実施可能日数目安をご記載ください。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;"></td><td style="width: 50%; text-align: center;">計</td></tr> <tr> <td></td><td style="text-align: center;">75日</td></tr> </table> | | | | | | | 計 | | 75日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 75日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

本公演・ワークショップの内容

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※会場条件について最低限必要な条件がある場合には、様式No.4内「会場簡易図面」を記載し



漫才



落語



太鼓樂



舞台設営風景



ワークショップ風景



創作漫才



アイウエオ作文



著作権、上演権等の許諾状況

| | | |
|--------------------|------|----------|
| 各種上演権、使用権等の許諾手続の要否 | 該当なし | 該当コンテンツ名 |
| 該当事項がある場合 | 権利者名 | 許諾確認状況 |

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

なし

【公演団体名

関西演芸協会

】

| | | | |
|-----------------|--|--------|--------|
| ワークショップのねらい | <p>演芸を伝承する者たちの修行風景に触れることで、近世から現代に至るまで受け継がれてきた演芸の奥の深さや普遍的な面白さに触れる事が出来ます。舞台を見る自分たちが何故、ワクワクし楽しいと感じるのか。児童・生徒自身が、実演し、体験し、参加することで、その答えにたどり着くことが出来るかもしれません。上方で発展を遂げた演芸に対する理解が深まり、本公演への理解と興味付けが出来ます。</p> <p>◆作ってみよう創作漫才 ◆アイウエオ作文では 『起承転結のあるショートストーリーを組み立てる』『創作の楽しさを体験する』『コミュニケーションと連携の大切さ』を体験。創作～発表まで、グループで一つの作品を完成させる過程を体験するのがねらいです。</p> <p>◆一番太鼓を叩こう ◆二番太鼓を叩こう 『寄席には伝承のしきたりが有る』『自分も伝承者としての役割を担う』『コミュニケーションと連携の大切さ』を体験します。それぞれ意味と役割がある事を自覚する事がねらいです。</p> <p>ワークショップで事前指導を受けた子供たちに、実演者としての自信と誇りを持って頂き、発表へ繋げてゆくのがねらいです。日本文化へ興味を持ち続けて頂くことを意図しています。</p> | | |
| 児童・生徒の参加可能人数 | ワークショップ | 参加人數目安 | 5名～50名 |
| ワークショップ実施形態及び内容 | <p>■実演児童・生徒のみが参加する場合 公開授業形式でワークショップを行います。実演する子ども達がイメージしやすいように、公開授業形式で、出演者にレクチャーを受けながらワークショップを進めます。演じ方の秘訣やポイントもアドバースします。観客の前でのどのように演じるのかという体験をする事で本公演での実演者としての自覚が生まれます。観客として見ている子ども達にも学ぶ楽しさを知って頂きます</p> <p>前半 40分： ●落語家修行 ①演芸とは、落語とは 始まりは演芸や寄席についてのお話をします。 ②寄席の名前を考えよう(全員で取り組むワークショップ) ③一番太鼓に挑戦 寄席の開演を告げる一番太鼓。特徴あるメロディを覚えて、打ちましょう。 打ち方のコツやヒントをレクチャーしながら、実践的なお稽古をします。 ④二番太鼓に体験 一番太鼓に続いて打つ二番太鼓。特徴あるメロディを覚えて、打ちましょう。 少し難易度が上がった打ち方をレクチャーを受けながら実践的にお稽古をします。</p> <p>後半 40分： ●漫才修行 ①漫才体験(創作漫才) 創作漫才に挑戦。予め余白のあるシナリオを準備しています。漫才師がこの虫食いシナリオでデモンストレーション漫才を披露します。児童・生徒の皆さんにはこの余白を自由自在に埋めて自分たちの漫才を完成させて下さい。同じシナリオでもチームの個性が光ります。また、自主的に創作した漫才を発表する場合も丁寧に指導します。登場の仕方や名乗り方等も実践体験もします。 ②大喜利～アイウエオ作文～ 5つの文字を盛り込んだ短文を創作します。同じ文字を使った短文でもオチのある短文。美しい短文。変化をつけた短文など。さまざまな工夫を凝らして創作します。 ■鑑賞児童・生徒が全員で参加する場合 公開授業の様なワークショップの形態に変わりはありません。様々なお稽古をしている児童・生徒の皆さんのお様子を鑑賞しながら皆で楽しめるワークショップ鑑賞会を行います。前半・後半・休憩を含め90分公演の構成は変わりません。</p> <p>※参加内容・参加人数などは学校の要望に沿って、選択して頂くことが出来ます。シナリオは、児童・生徒の世代に応じた話題や価値観のシナリオを漫才師が創作。コミュニケーションツールとしての会話の大切さを学んで下さい。ワークショップ終演後、ホームページやZOOM等を用いてフォローアップをいたします。(約30分程度) 漫才ワークショップのフォローは、ワークショップ公演でお伺いした、漫才師 シンデレラエキスプレスの渡辺裕薫が指導者として担当いたします。本公演実施の7日前頃にお稽古の進捗状況の確認をします。創作漫才やアイウエオ作文は、児童・生徒の作品を見て、アドバイスを致します。一番太鼓、二番太鼓もお稽古の進捗確認とアドバイスを致します。太鼓用の撥を各校2組づつお貸出ししていますので、お稽古に励んで下さい。</p> | | |

①ワークショップで伝えきれることはわずかです。そのため、創作活動に必要な事項を盛り込んだホームページのご案内をいたします。繰り返し見返したり、創作活動のヒントにしたり、児童・生徒の皆さんができるようになっています。質問ページも設けていますので、お稽古に悩んだときはこのページを利用して下さい。また、ワークショップと本公演の間にZoomを使ってフォローアップの機会を設けます。ネタ見せは漫才修行に必須です。先生方・子ども達の不安、心配に寄り添い本公演へ繋げてゆきます
番太鼓・二番太鼓の進捗状況も落語家が確認をいたします。ワークショップの後、自主練習だけでは②特別支援学校での公演でも原則的にどのワークショップにもご参加いただけるよう工夫を加えます。
お腹からおおきな声を出す。(発声方法)・早口言葉の体験・扇子・手ぬぐいの使い方、等々 まず 体感から理解を深めます。出来る範囲で落語家修業・漫才修行にもチャレンジしていただく為、指導者・スタッフも全力でサポートいたします。Zoomでのフォローアップもいたします。

・ワークショップでは、公開授業のようなスタイルで実演体験する子ども達に本公演と同じような環境でお稽古をして頂きます。観客のいる中で、舞台の上で自分たちの作品を発表する事、お稽古の成果を発表する事の難しさと面白さを体験していただきます。

その他ワークショップに関する特記事項等

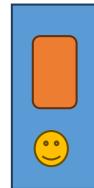
前半は落語家が担当

一番太鼓・二番太鼓のデモンストレーションとお稽古をします。

後半は漫才師が担当

創作漫才・アイウエオ作文のデモンストレーションとお稽古。

講師とワークショップ実演者



舞台

児童・生徒の座



アイウエオ作文お稽古風景

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添 なし

【公演団体名】 関西演芸協会

】

| | | | | | |
|------------------------------------|--|---------------------------------------|--|--|--|
| 記載方法等 | 例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。 | | | | |
| | ・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかつた。 | ・搬入車両が構内に入れず、搬入のための追加費用が生じてしまった。 | ・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。 | 上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。 | |
| 任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。 | | 詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。 | | なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。 | |

| 会場条件 | (必須) 公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。 | | | | | | |
|------|---------------------------------|----------|---------------------------|-------------|-----|--|--|
| | 会場の設置階の制限 | 条件なし | 主幹引き込み電源容量 | 10 A以上 | | | |
| | 舞台設置面積 | 間口 高さ | 8 m m | 奥行 | 4 m | | |
| | 舞台設置場所 | フロア対応 | 条件が合えば可 | 学校のステージでの対応 | 可 | | |
| | 搬入間口の広さ | 幅 | 1.8 m | 高さ | 2 m | | |
| | 遮光の要否 | 遮光要件なし | 締帳の要否 | 有無のみ確認したい | | | |
| | ピアノの使用について | 使用しない | ピアノを使用する場合の設置位置の指定 | | | | |
| | | | ピアノを使用しない場合の移動の要否 | | | | |
| | 搬入車両(トラック等)の横づけ | 応相談 | トラック横づけ不可の場合の 搬入対応可能距離 | 10 m以内 | | | |
| | 搬入車両の種類 | ハイエース | 台数 | 2 台 | | | |
| | 搬入車両の大きさ | 車幅 | 2 m | 車長 | 6 m | | |
| | 備考 | | | | | | |

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

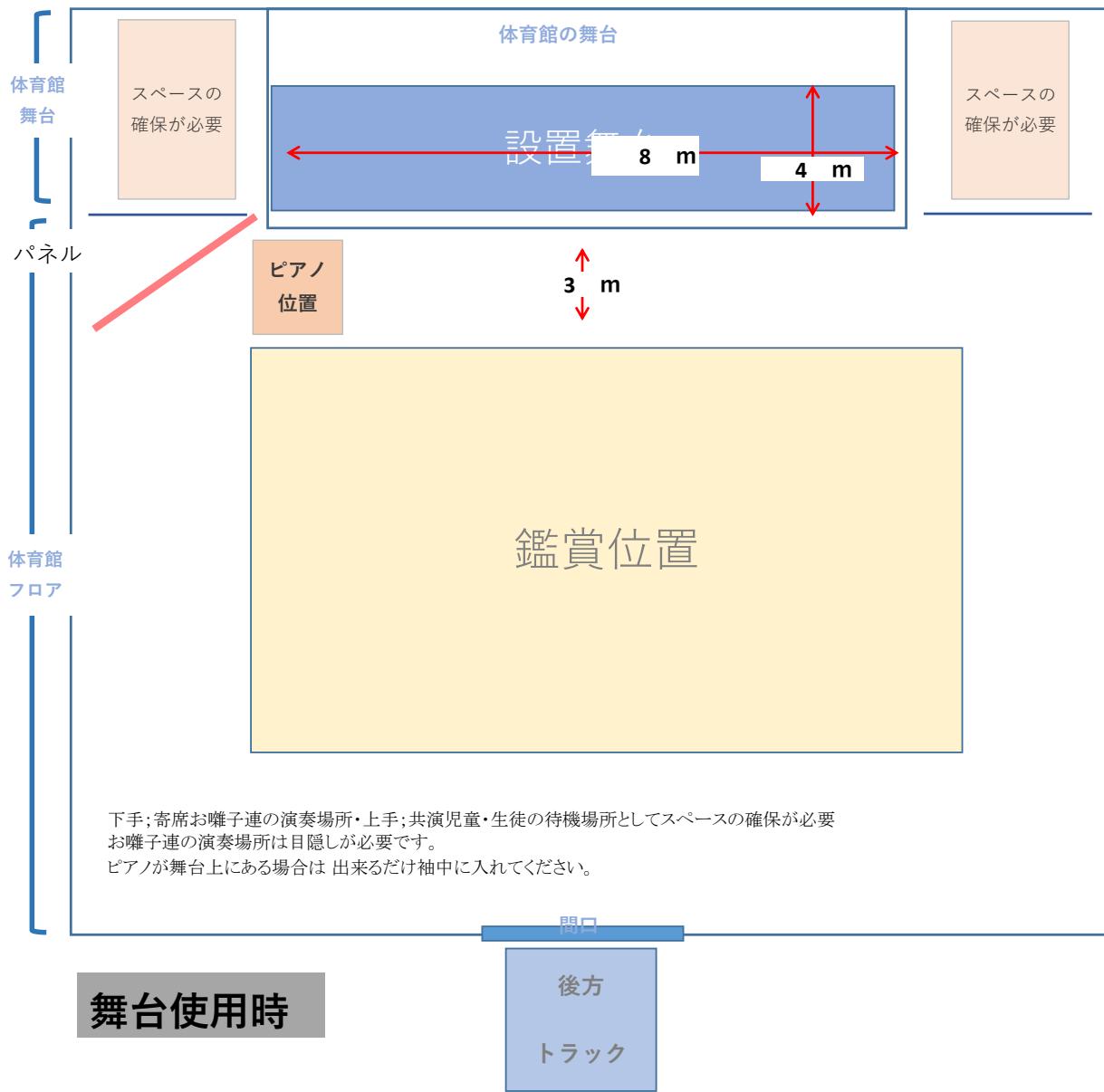
| 学校からの情報 | (任意) 学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。 | | |
|---------|------------------------------------|-----------------|--|
| | 会場図面の提出要否 | 要 | |
| | その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等) | 搬入経路の地図を送って下さい。 | |

| 時間外対応 | (任意) | 万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。 | | | | | | | | | |
|-------|--|---|--|---|--|--------------------------------------|--|--|--|--|--|
| | なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。 | | | | | | | | | | |
| | ※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。 | | | | | | | | | | |
| | 対象 | 所要時間(分) | 時間帯 | 内容 | 備考 | | | | | | |
| | ワークショップ ワークショップ | 共演、参加又は体験対象となる児童・生徒 一番太鼓:各自自主練習 一番太鼓;各自自主練習 創作漫才;チームで練習 アイウエオ作文;チームで練習(30分程度) | 一番太鼓・二番太鼓:自宅で自由時間を使って練習 創作漫才・アイウエオ作文:学校で15:30～16:00予定 | 一番太鼓・二番太鼓:手と膝を使ってリズムの練習 創作漫才・アイウエオ作文:各グループ毎に打ち合わせと練習 | 一番太鼓・二番太鼓:ホームページのお稽古動画を見ながら練習を進めましょう。 ZOOMで確認します。 創作漫才・アイウエオ作文:ZOOMでネタ見せるまでに練習を進めます。 | | | | | | |
| | ワークショップ ワークショップ | 鑑賞対象となる児童・生徒全員 | 各グループ10分程度 | 15:30～16:30予定 | ワークショップの進捗状況確認とフォローアップ | 本公演実施の10日前頃、学校の都合の良い日時を選び、ZOOMで行います。 | | | | | |
| | 本公演 本公演 | 共演、参加又は体験対象となる児童・生徒 30分程度 | 30分程度 | 11:30～12:00 | リハーサル | 動作確認や舞台の上での発表を簡単に行います。 | | | | | |
| | 本公演 | | | | | | | | | | |

| | | |
|--------|------|---|
| 個別確認事項 | (任意) | 上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。 |
| | | 個別ヒアリング事項 |
| | 1 | 午前公演の場合、前日仕込みが必要な場合がありますが、ご対応はいかがでしょうか。 |
| | 2 | 学校周辺道路について、ハイエースが2台入ります。進入禁止エリアや進入禁止時間 等はありますでしょうか。 |
| | 3 | |

(任意) 会場条件について最低限必要な条件がある場合、簡易図面を記載してください。

※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。



別添

なし

【公演団体名】

関西演芸協会

】

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫**【本事業を通じて実現したいこと】**

- ①子どもたちに日本の文化芸術を学び知り、後世に伝えて行く機会を作る事。
日頃 子どもたちが使用している体育館に大道具小道具を持込み本格的な寄席舞台を出現させます。はじめて出会う寄席体験を記憶に残る形で表現します。
- ②子どもたちの創造力を喚起し、表現意欲をかきたてる事。
創作活動では、多様な言葉のおもしろさ、間合い、身振り、手振り、といった表現手法を使って実演体験して頂きます。太鼓体験では、太鼓の音色に込められた願いに思いを馳せて打つ体験をして下さい。
- ③日本語の持つ表現力と品格を感じる事。
演芸に登場する笑いには、品格があります。誹謗中傷の笑いや言葉の暴力はありません。対話や笑いを通して豊かなコミュニケーションを学ぶ場となります。
- ④寄席を通して日本文化を理解する事。
日本の伝統芸能は、礼に始まり礼に終わる文化です。ワークショップ・本公演に参加する児童、生徒たちにも、その美しい姿に触れて頂きたいと思います。
以上、ワークショップから本公演を通して、楽しみながら学んで下さい。

【上記の実現に向けて、実施の工夫】

- ①出演者は、原則的に、関西演芸協会に属し『文化芸術による子供育成総合事業』の趣旨に賛同する演芸家で構成されています。初めて上方の寄席芸に出会う子どもたちばかりですので、子どもたちの気持ちや思いを掬い上げ、体験できるよう配慮した人選で望みます。
- ②天満天神繫昌亭や末広亭などの寄席小屋を体育館に再現させ、初めて演芸に触れる子ども達にわくわくする気持ちや臨場感を感じて頂ける工夫をしました。
- ③舞台を鑑賞するだけではなく、参加する喜びを感じて頂きたい。本公演では、共演児童だけではなく、全校児童・生徒が楽しめる様、観客全員で参加する落語仕草体験も盛り込みました。④観客参加型漫才では、なぞなぞクイズを取り入れ、鑑賞している児童・生徒の皆さんのが、自由な意見を出せるような工夫がされています。
- 上記のような実施の工夫で、文化の伝承とコミュニケーション能力の育成という課題に取り組みたいと思います。

【学校との連絡調整について】

実施校が決定した段階で学校電話連絡を行い、円滑なコミュニケーションを図りながら、信頼関係を構築します。
スケジュール調整や必要な事項の確認については、書面や電話連絡で記録を残しながら確認をいたします。自然災害や感染症の流行など不規則な事案についての対応方法についても網羅的に記載された文書をお送りします。
ワークショップまでの間にワークショップ・本公演の日時確認とワークショップに使用する場所についてのアンケートフォームを使って確認します。ワークショップ～本公演の間はホームページの閲覧とともに、リモートなどをを利用して進捗状況の確認を行います。

【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】**事業を適切かつ円滑に実施するための工夫**

学校との連絡調整の際、各校の意向を確認します。例えば、ワークショップや共演内容についてですが、大きな音が苦手な児童・生徒へは座席位置の配慮やイヤーマフの着用等の配慮をいたします。他の児童・生徒と同じ空間での鑑賞・参加が困難な場合は別室においてリモートでの鑑賞・参加等、実施校ごとに必要とされる対応を柔軟に行います。ワークショップ及び本公演での共演部分に配慮を必要とする場合は、一部変更するなど学校の要望に寄り添った柔軟な対応をいたします。

【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

関西演芸協会では、青少年を対象に演芸に触れ、楽しむ活動を続けています。今年度は学校巡回専用ホームページを設け、過去の公演の様子をご覧いただいたり、ワークショップのお稽古ページを設け、いつでも閲覧し、お稽古できるようにしています。質問ページも設け、お稽古の進捗の中で疑問に思った事、解らない事を質問できるようにしています。ワークショップ～本公演に臨む子ども達、鑑賞する全ての児童・生徒たちが関西演芸協会の作品に触れ、上方演芸に親しみ、公演終業後も興味を持ち続けて行くことが出来るよう、出演者 及び スタッフ一同でサポートいたします。

本事業への応募理由等

一般区分・特別エリア区分共通

別添 ※別添は1企画当たり3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

| リンク先 | No.2 | 【公演団体名】 | 関西演芸協会 |
|--|------|---------|-----------------------|
| 基本的には学校様の体育館に舞台を作ります。 画像では後ろのバトンに幕を垂らしていますが、小さい体育館では、少し小さめの幕または金屏風で対応致します。一連の様子は、関西演芸協会の公演風景です。 | | | |
| 項目内容 | | | <p>体育館に寄席舞台が出現します</p> |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |